

永正六年九月九日起日後柏原天皇主催着到和歌

恋・雑の部

辰
田
芳
雄

永正六年九月九日起日後柏原天皇主催
着到和歌 恋・雑の部

辰 田 芳 雄

はじめに

紀要四二号・四三号に続き、国立公文書館内閣文庫「著到和歌」のうち、永正六年九月九日起日後柏原天皇主催着到和歌の恋（一五日）・雑（二五日）を翻刻する。これで翻刻は完結することになる。

今回の翻刻・対校作業の中で特に気づいたことを列挙する。

対校本とした一九〇七年出版『続々群書類従』所収の「後柏原院御日次結題」は、正徳三年（二七三）の板本を活字化したものであるが、板本の誤転写がある。

○恋の3 廿二日 歎無名恋

4 恨すや思ひもかけぬなき名さへ 風にさきたつ波にぬれぬる 実隆

なきさーなき名

これは誤転写というより、誤りを正したといふべきであろう。歌題が「なき名を歎く恋」であるから、「なきさ（渚あるいは汀）」は誤りで「なき名（身に覚えのないうわさ）」のほずであると判断したのであろう。活字化する際に、編者が「かねてより風にさきたつ波なれや あふことなきにまだき立つらん」（古今和歌集恋三、よ

み人しらす、六二七）を想起していて、この改変となったと思われる。現代語訳すると、「恨まないでいられようか。思いもかけず身に覚えもない恋のうわさがたつてしまつて、風もふかぬ風の海に急に波が立つて濡れてしまうように、まったく迷惑なことだ」くらいであろうか。『続々群書類従』の「後柏原院御日次結題」は板本を単に活字化しているのではないことの一例といえよう。なお、他本では①「なきさ」を「汀」と漢字化したものや、②さらに「汀」を「みぎは」と読んだものがある。①は底本とした「内閣文庫本」と「高松宮本」、②は「伏見本」・「阿波国文庫本」・「雪玉集」である。おそらく①・②ともに実隆の本来の和歌ではなく、唯一「後柏原院御日次結題」のみが実隆の歌を復元している。

○恋の5 廿四日 不堪待恋

4 こよひ来てそれときくともとはしとや こゝろの松の雪折のこゑ 政為

まてー来て

「ま」を「来」と読み間違えたのか、或いは「ま」となっているが本来は「来」ではなかったのかと編者が推量し改変したのか、どちらとも判断できない。なお、「伏見本」・「高松本」・「阿波国文庫本」・「古典文庫本」は「さて」である。

○恋の11 一日 遂日増恋

14 にしき木にあらぬ深さのくれなゐの 袖も幾日の色を重ねん 重治

深たー深さ

おそらく「深」は「涙」の誤り。他本では、「なみた」あるいは「涙」

○雑の1 残月越関

2 影さゆる月のしら濱はるくくと關路あけゆく須摩の浦かせ 永宣 関下簡

歌題から見て、誤植であろう。

次に、「後柏原院御日次結題」では「恋の15 五日 絶経年恋」のすべてが欠落している。しかし、板本には全和歌が掲載されているので、単なる編集上のミスであろう。また、「恋の2 廿一日 祈難會恋」の最初の和歌、三条西公條のものは万葉仮名で記してある。板本も同様である。恋の1、恋の3も公條が先頭であることと関係があるのであるか。なお、他本に万葉仮名で書かれた例はない。

次に、和歌がまったく異なるものが一例だけある。「雑の3 八日 嶺林猿呼」の6の御製である。①かけふかき木すゑもわかぬあま雲の ミねたちならしましら鳴声。②花に風香りをたにおもふ峰の雲 ふかき木末に猿もなくなり。①は「内閣本」・「高松宮本」・「阿波国文庫本」、②は「後柏原院御日次結題」・「伏見宮本」・「列聖全集」である。このことから、「内閣本」・「高松宮本」が同一の親本からの写本、また「後柏原院御日次結題」・「伏見宮本」は前者とは異なる同一の親本からの写本であることが想定できようである。

※紀要四〇号「後柏原天皇主催着和歌の特徴」に掲載した表1に不備があったため、その後いつくかの追加・訂正を行った。そして、就実大学で二〇二三年二月四日に開催された吉備地方文化研究所シンポジウム人文知のトポスⅦで「室町・戦国期における禁裏着和歌の展開」と題して報告する際に、さらに表1の修正・補正をした。この時に提示した表1を末尾に掲載する。

永正六年九月九日起日後柏原天皇主催着到和歌（秋・冬の部）

— 国立公文書館内閣文庫「著到和歌」（二〇一—一四六） 当該部分の翻刻 —

国立公文書館内閣文庫「著到和歌」の一番目（画像3コマ目から64コマ目）が永正六年九月九日起日後柏原天皇主催着到和歌である。春（二〇日）・夏（二五日）・秋（二〇日）・冬（二五日）・恋（二五日）・雑（二五日）、九月九日歳中立春から十二月二十日竹契週年までの百日分である。これを底本とした。詠者は後柏原天皇・三条西実隆・下冷泉政為・小倉季種・甘露寺元長・田向重治・東坊城和長・冷泉永宣・広橋守光・姉小路濟継・三条西公條・下冷泉為孝・四辻公音・中山康親・甘露寺伊長・飛鳥井雅綱の一六人である。

この着到和歌は『続々群書類従』に①「後柏原院御日次結題」としてすでに一九〇七年に活字化されている。この活字化は岡山藩土野村尚房により翻刻され宝永二年（一七〇五）六月に江戸の本屋で出版され、正徳三年（一七一三）に江戸と京都で再版された②板本を底本としている。一六人の和歌が確認できる公文書館所蔵「著到和歌」以外の写本は、③宮内庁書陵部「後柏原院御着到百首」（伏五四）④国立歴史民俗博物館高松宮家伝来禁裏本「禁裏御著到和歌」、宮城県図書館伊達文庫「近代著到和歌」などが知られているが、①・②・③・④を参照した。翻刻における注（※）での略称は、①：日、②：版、③：伏、④：高とする。

詠者一六人のうちの一部の詠者のみ取めている写本がある。後柏原天皇・三条西実隆・下冷泉政為・姉小路濟継の四人の和歌で構成された写本に⑤東京大学史料編纂所「禁裏御著到百首和歌」（阿波国文庫）がある。また、後柏原天皇の百首は⑥『列聖全集・御製集六』に、三条西実隆と三条西公條のそれは⑦「雪玉集」（『国歌大観』『私家集大成・中世Ⅴ』）、下冷泉政為のそれは⑧「権大納言政為卿着到和歌」（井上宗雄氏所蔵、古典文庫第四二八冊『中世百首歌Ⅰ』）にそれぞれ収められている。翻刻における注（※）での略称は、⑤：阿、⑥：列、⑦：雪、⑧：古とする。今回は、恋の部（二五五分）・雑の部（二五五分）を翻刻した。

（凡例）

- (1) 月日（或いは日付）・歌題の下に、秋の部の順番、起日九月九日からの日数の順番を記した。例えば、十二月「十三日 樵路日暮 雑の8 93」は、雑の部では8番目で、全体では93日目という意味である。
- (2) 各日（各歌題）に十六人・十六首あるはずである。和歌の頭に先頭から順に算用数字でその順番を記した。しかし、底本は（十二月）十九日憂喜依人雑の14は十二人分、廿日竹契週年雑の15は四人分のみである。
- (3) 底本の国立公文書館内閣文庫「著到和歌」には欠落している和歌がある場合は、③宮内庁書陵部「後柏原院御着到百首」（伏五四）により補った。底本の和歌の順が「続々群書類従」所収①「後白河院御日次結題」や③宮内庁書陵部「後柏原院御着到百首」（伏五四）と異なる場合は、その順を和歌の上部に記した。例えば、（十一月）廿一日 折難會恋 恋の2 72 の「阻14 しろしなき神もこゝろのつれなさを 人にはいつかならひそめけん 為孝」の歌は、底本では十四番目であるが、日①「後白河院御日次結題」では十六番目、伏③宮内庁書陵部「後柏原院御着到百首」では十四番目であることを示している。なお、①と③が同じ順であれば、①で代表させた。伏の雑14の11以後と雑15は欠落している。
- (4) 上の句と下の句の間を一字分空けて一行に記し、最後に詠者を記した。詠者は底本の記載通りにした。また、平仮名の字母は、右側に小さくそれを記した。
- (5) 網掛けを施した部分は、※の後に注記した。※のあとに略称がないものは、底本である公文書館所蔵「著到和歌」についての注である。例えば、「※か（のイ）」の場合は、網掛けの字の「か」の右側に記されている注書きである。「※日：」は、①「続々群書類従」「後白河院御日次結題」の異なった記載である。「版：」は①が②版本と異なる場合（恐らく転写誤り）である。他の写本の異同も略称で示した。一つの歌に複数の注がある場合は、「※2」などとした。

廿日 思不言恋 恋の1 71

- 1 身を志者しれはうち者いてのは者まのうち者いてぬ 心の色を可いか可て可ミ可え可まし可 公條 ※日・雪…に伏・高…て
- 2 外尔にその見奈え奈ん色者を者とハ者れは者や わか可あ可ら可は可さ可ハ可あ可さ可き可思可ひ可を可 済繼 ※阿…し。※2日…ぬ。伏…は。阿…高…ハ
- 3 いか可さ可ま可に可うち可も可り可いて可ん可こ可の可葉可に 心多ゆる多さ多ぬ多う多た多か多ひ多も多な多し 和長 ※日・伏…か。高…り
- 4 思多ふ多と多て多心多をつ多く多す多こ多の多は多は多、能者あ可ら可し可物可か可ハ可あ可た可に可ち可ら可す可な可 実隆 ※阿…り。※2日・伏…阿…ら。高…雪…ハ。※3日・伏…阿…さし。雪…すな。高…すな(さし)
- 5 涙多た多に多せ多か多て多や多見多せ多ん多た多れ多ゆ多へ多と多ハ多、能者こ多の多葉多の多た多よ多り多も多そ多あ多る多 永宣 ※日…え。伏…高…へ
- 6 い飛ひ飛いて徒、徒つ起ら起き起を起み起ん起も起わ起り起な起し起と 思可ひ可わ可つ可ら可ふ可年可も可へ可に可け可り可 元長
- 7 か可き可り可あ可ら可は可人可や可く可み可し可ると志留ハ可か可り可に いは可て可も可え可や可ハ可山可の可み可の可水可 政為 ※阿…らると
- 8 思可ひ可あ可ま可り可あ可ら可ぬ可人可に可や可中可く可に可と可ハ可す可か可た可り可の可心可見可え可まし可 公音
- 9 わ可か可心可あ可た可ち可の可ま可ゆ可ミ可す可え可つ可る可に可忍飛ひ飛ハ飛は飛て飛し飛色飛や飛見飛え飛ん飛ん飛 季種
- 10 う歸き歸ふ歸し歸も歸ま歸し歸る歸な歸ら歸ひ歸の歸よ歸に歸こ歸り歸て いは者ぬ者な者け者き者や者谷者の者下者し者は者 為孝
- 11 つ徒れ徒も徒な徒き徒心徒よ徒それ者とい者は者さ者ら者む者 か可き可り可ハ可い可つ可か可な可ひ可く可を可も可ミ可む可 重治
- 12 下阿く阿ゆる阿あ阿ま阿の阿も阿し阿ほ阿火阿それ多と多た多に多ほ本の本め本か本す本へ本き本言本の本葉本も本か本な本 伊長
- 13 い徒ひ徒いて徒、徒つ徒れ徒な徒き徒色徒は徒う徒き徒物徒と 思尔ふ尔に尔猶志も志し志の志ふ志中志か志な志 康親 ※高…なし
- 14 猶尔そ尔う尔き尔それ尔にも尔あ尔ら尔ぬ尔人尔に尔さ尔へ尔く尔る尔し尔き尔物尔とい者は者ぬ者思者ひ者ハ者 守光 ※高…なし
- 15 い可つ可ま可て可か可涙可は可かり可か可む可す可ふ可へ可き可 せ志めて志て志し志ら志す志る志一志言志も志か志な志 雅綱 ※日・伏…に。※2日・伏…せ
- 16 も毛ら毛し毛て毛も毛つ毛れ毛な毛かり毛せ毛は毛と毛ハ毛か毛り毛に毛おも飛ひ飛か飛へ飛し飛て可す可く可る可中可か可な可 雅綱

廿一日 祈難會恋 恋の2 72

- 1 祈里り里て里も里う里き里田里の里も里り里の里う里き里中里は里 神志さ志へ志う志け志ぬ志契志を志そ志し志る志 公條 ※日・版…伊能里天茂浮田墨森及臺中者 神左志請契越越知 万葉仮名表記
- 2 思可へ可か可し可神可に可し可る可し可の可な可き可名可を可も可 たく可つ可れ可な可さ可に可た可つ可と可か可ハ可し可る可 済繼
- 3 人盤は盤な盤を盤は盤け盤しく盤ミ盤ゆる盤初世山世 か可ね可の可み可た可り可や可し可る可て可い可の可ら可ん可 和長 ※日…なほ。伏…なを。高…猶
- 4 か可ひ可も可な可き可心可つ可く可し可か可よ可そ可に可の可ミ可 う徒つ徒る徒か徒、徒み徒の徒神徒と徒見徒は徒て徒は徒 実隆
- 5 あ者は者て者う者き者あ者ハ者れ者を者し者ら者は者折者て者ふ者 か可、可み可の可神可も可か可け可や可く可も可ら可ん可 永宣
- 6 き木ふ木ぬ木川木た木と木る木あ木ふ木せ木の木あ木た木波木を木 い類の類る類か類ひ類な類き類袖類に類か類け類つ類、徒 元長 ※日・版…う。伏…高…か
- 7 み奈し奈め奈繩奈な奈ひ奈く奈とも奈み奈る奈一奈言奈の奈 神盤は盤な盤き盤よ盤を盤う盤ら盤ミ盤て盤そ盤ふ盤る盤 政為 ※古…しる。阿…ミよ
- 8 あ可さは可か可に可何可う可ら可み可け可む可折可さ可へ可め可く可り可も可あ可は可て可す可く可る可月可日可を可 伊長
- 9 い寸の寸ら寸す寸よ寸千寸木寸の寸か寸た寸そ寸き寸行寸あ寸ひ寸も寸 し志ら志ぬ志契志の志く志ち志は志て志ね志と志ハ志 重治
- 10 神奈や奈先奈な奈ひ奈か奈さ奈る奈らん奈わ奈か奈中奈に奈 あ者は者ぬ者な者け者き者の者森者の者ゆ者ふ者し者て者 康親
- 11 よ毛し毛や毛た毛、毛神毛も毛う毛ら毛み毛し毛折毛て毛も毛 あ梨ら梨ぬ梨ち梨き梨り梨の梨む梨く梨ひ梨なり梨け梨ハ梨 雅綱 ※日…は。伏…高…ら
- 12 神者葉者の者は者か者へ者ぬ者色者に者見者る者も者う者し者 つ徒れ徒な徒き徒色徒に徒祈里り里こ里し里ミ里ハ里 公音 ※阿…ら。伏…陰を。列…阿…かけを。高…色に
- 13 あ阿は阿れ阿と阿ハ阿い阿つ阿れ阿の阿神阿か阿ゆ阿ふ阿た阿す阿き阿 かけて可て可此可身可は可い可た可つ可ら可に可して可 伊長
- 14 し志る志し志な志き志神志も志こ志、志ろ志の志つ志れ志な志さ志を志 人尔に尔は尔い尔つ尔か尔な尔ら尔ひ尔そ尔め尔け尔ん尔 為孝
- 15 い伏の伏る伏て伏ふ伏こ伏とは伏う伏け伏し伏の伏神伏無伏月伏 そ志て志の志し志く志れ志を志と志ふ志人志も志か志な志 守光
- 16 あ伏ふ伏こ伏とは伏神伏も伏ゆる伏さ伏て伏い伏の伏る伏か伏ひ伏 なく奈く奈く奈か奈くる奈杜奈の奈し奈め奈繩奈 季種

廿二日 歎無名恋 恋の3 73

- 1 くらへてもなき名はうしやたハれ嶋 波のぬれきぬいつかほさまし 公條
- 2 わかうへはともかくにもおもふ名の いへはさすかにいへはくるしき 濟繼
- 3 月草のうつらふ人のたくひにハ かハらんとての名にやたてけん 和長
- 4 うらみはやおもひもはてぬ汀さへ 風にさきたつ波にぬれぬる 実隆
- 5 かさねさるたかぬれきぬをわか袖の なミたになして名ハもれにけん 永宣
- 6 うき事もよしあふまてと過しきて なき名をさへになききそへつ、 二元長
- 7 たれかしる身は中くにあらぬ名を はるけもやらて過す月日を 政為
- 8 思ふとはたれしりそめてかくはかり よそになき名のまたさ立らん 伊長
- 9 かこつへきかこともとめて我にうき 人やなき名もいひハたつらん 重治
- 10 いつまでか山としたかくあたし名の たつきもしらぬ中になげかん 季種
- 11 ほしわふる浪のぬれきぬくるしくも たかぬき、するつらさなるらん 守光
- 12 今更になけきやハせんとてもかく たつ名といひて人しなひかは 雅綱
- 13 いとふとかおもひもなさはよしやた、 身のうき名をはいひもはるけし 為孝
- 14 とにかくにたつハき名そ思ハぬを 思ふならひもミにハしらねと
- 15 いかなれはそての下行涙川 しらぬあふせの名にハたつらん 公音
- 16 身にゆるすゆき、はたえつ今ハさは あらぬなこそ守もかな 康親

廿三日 相互忍恋 恋の4 74

- 1 身ひとつの人めつ、ミはいかならん ふたりせくにそ水ももらさぬ 和長
- 2 行かよふ心のおくはいかなれや とも忍ふのやまのしたみち 永宣
- 3 はかなくもたか方よりかよハるへき 色にいてし心くらへは 元長
- 4 おもひ川袖のしからみ同しせに 人めつ、ミのなミたもらすな 守光
- 5 かハかりのなミたやハせく世につ、む 契りハおなしこ、ろなりしも 雅綱
- 6 もらさしの心はおなしともにも 我そなミたはせきまさるらん 濟繼
- 7 いかさまに人の見るらんわか中ハ よそけになしてともふるよを 為孝
- 8 たかかたかかきりしられんとハかりに いと、忍ふのみたれて所思ふ 公條
- 9 よにもれはわか身のとかななりやせん 人にまけしと忍ふくるしき 公條
- 10 夢にたに見えしと思ふおもひねに 人もやつらき人のおもかけ 公音
- 11 たか方心のおくはふか、らん ミやハしのふの同し山路を 実隆
- 12 もらさしの心くらへハわれハいさ まけておもひの身にもあらまし 政為
- 13 問いこしのかことなりとハたのましょ 人もよそめをしのふ計は 重治
- 14 ひまもなき人めをよきてもるともに せくや泪の川くちのせき 季種
- 15 わするなよ露の契りのす糸はまて ともにと忍ふ草のねさしを 康親
- 16 もろともにかきなさけハかよひても 忍ふにたゆる中のとし月 伊長

廿四日 不堪待恋 恋の5 75

- 1 一夜にも身は朽ぬへし橋姫の袖やつれなく波に屋徒連奈なれけむ尔毛 実隆 ※阿：わり、※なぬづ。日・高：なぬづ。雪・阿：ぬ
- 2 たのめつる人は音せぬ夕風に尔古こゝろのまつ身を越志本しほりぬる 永宣
- 3 命を者は此夕くれにつくしても待わひぬとハたれか多つたへん 元長
- 4 こよ古ひ飛までそれと聞ともハしとや 古こゝろの松の雪折のこゑ ※ま(さ)日・来。版。伏・高・阿・古：さ 政為
- 5 此夕へ身を越可起梨かきりそとおもひしる 多尔道たに奈あれなよしとハするとも 為孝
- 6 む奈なしくて明もやしなむとはかりを 古乃この夕より先なけく可那かな 济継
- 7 心たに心多尔にさハるうさなれや 起ちきりいかにとおもふまつよ盤は 季種
- 8 ありし身梨になれしものから可此くれを 待もかきりと何おもふらん 康親 ※日：むなし。伏・高：なれし
- 9 偽尔奈にならふうき身起はたのめつ、 徒まつ夕さへくるしかりけり 伊長
- 10 あたならぬ命奈なりけり待よはの 乃こゝろは千々尔多にくたく物から 重治
- 11 今盤は身におもひたえなんとハかりに 可利尔待よくるしき心とをしれ 守光
- 12 偽尔奈になれし夜古ころのいつまでか 可た、うた、ねの月尔にあかさむ 公條
- 13 待本ほとまた、に尔あられぬ身尔にしあれハ 阿いく度床の塵尔はらふらん 和長
- 14 萩の上の露能をも袖尔者にはらひかね 可わかまつくれは風毛徒もつれなし 公音
- 15 我ゆかん今可はあけぬとおもへとも 奈とてねぬ夜加をうらミかてらに 雅綱
- 16 消者はて、後盤はなにせんつゆの身能の 乃これるほどとふ人可那もかな

廿五日 臨期変恋 恋の6 76

- 1 しり志さりきふりは里起布利者へ今は雪盤もよ尔に ひとり水利の袖志をしけとハ 実隆 ※阿：れ
- 2 時の間尔に測盤はせとなるあすか川 奈類阿寸可あすとひてもまた可やか可はらむ 永宣
- 3 かわ門可をとふかとき、し小車能の 飛ひきかへす尔にも可また可かた奈そなき 元長
- 4 風可かハるそら里さりけなき夕くれや 奈支わか袖可のミ能志のしくれ奈留なるらん 政為
- 5 かならずといひ飛し夕可のかね可ことに 可かハるこよ古ひのひとり奈ね祿そうき 伊長
- 6 人古ハこの後可いかさま满尔起にちきるとも 今更かハる音信盤はうし 康親
- 7 このくれとおし古へ可を毛きつる可いもか門 多尔あらぬ尔こたへ志に毛さし毛や毛こ毛も毛れる 重治
- 8 さ佐、かに可の蛛乃のふる满飞ま可ひ可ひ可かへて 可うし可やか可ね志ても志し志らぬ志さ志ハリハ 济継
- 9 今盤こんといふ奈はなれぬ者いつ者はりを 尔古更者に者こ者とはる音信毛もうし 為孝
- 10 たのめ毛し万奈可も今世のま盤なから音毛せぬは 寸もし多可わす尔るや奈のうた多可か奈ひ奈も奈なし 季種
- 11 と起きのま调毛徒もつら可き千とせ可か無いま可こむと 尔心尔のまつ尔につく尔るさ盤ハりは 守光
- 12 時のま万尔に何可をか可こと佐者のさ毛はりとも 尔我者に者こ者とはれ徒希能つけ调の小调ま调くら 公音
- 13 今古こむ無といひ飞しハ身尔にもた祿のま祿ねハ 毛おも毛ひ古し可こと可よ可か類ハる夕徒くれ 和長
- 14 おも流ハすよ今尔ハとあく流る楨尔の戸尔に とハしと告累る人徒のを徒とつれ 雅綱
- 15 つれ徒なき奈支も今古は盘こり古ねとおも尔ふらん 又この者きは者も人可のか可ハれる 公條
- 16 思飞ひかへす心毛もあら者はさ可夜可ま志くら かね志て志し志らせぬ夢志の夜志そ志う志き

廿六日 時々驚恋 恋の7 77 高・伏は16欠

- 1 たまさかにさてもとかこつ夕たに可とハては人のいく可かす起きけむ个 永宣※日…日版…日(幾日)伏…高…か
- 2 身を秋と思ひしりても此ま盤はいか、山田のおとろかし徒つ、 元長
- 3 いつ可かみ無む夢をハしらす折志くの ミのうき教ぞおとろ可かれぬる 政為
- 4 せめてた堂、わすれはつなと折尔くに 満多可おとろかす中ハかひ可なし 伊長
- 5 折徒くのつらさはかりをたよりにて 身ハいたつらにおとろかるらん 康親
- 6 はら者ひ飛こし古跡李よりミちのつゆけさも 又いつ迄のよもきふの庭 重治※日…路版…道伏…道高…路
- 7 かき可やるも人めもるまの玉つさを たのみ思飛ひのある身とやミむ 雅綱
- 8 いつをさておもふ尔にた可ゆ心む心とて 心のわれをおとろかすらん 済継※阿…の
- 9 物古ことにおもひ飛わすれぬたよりに尔も 猶雲風や身を志しほるらん 為孝
- 10 あち奈きなくこれを講まことの契かハ わすれぬほとにおとろかして可も 公條
- 11 春の花耳焔の紅葉徒にうつる世を おなし思奈ひの身尔にそおとろく 公條
- 12 風衛のこ糸虫年のねもた古、この比盤は わかおもひ可なる袖を飛ミせ者はや 実隆
- 13 あた多波於のおりし毛もあれは者すて小舟 おもひハすてぬ風もよすらん 和長
- 14 さ佐すかな可をわすれもは者す思飛ひいて、 まれにも人のわれを爾とハ季まし種 季種※日…伏…こらし高…とハまし
- 15 とも毛すれは心者をしほる松の風 わすれぬものに袖志そ留しくる、 守光
- 16 恋母に身个はけふも暮ぬとおとろけと な奈をわす春す連られぬ鐘のをと哉 公音

廿七日 憑誓言恋 恋の8 78

- 1 たのむそよ神尔にかけ徒つること古のハ、 た、わ可かた多めのゆふた多すきとも 政為※阿…さ
- 2 ゆふかけて契希やをかんか可ハらし能の こと古のは者もり能の神尔のまに尔く 永宣
- 3 一春すち尔にちかひ飛しす多よ里さりとも たのむ満ま古ことを神やうくらん 為孝
- 4 神可よさてちかひ古しこと、いさめてや か可ハる心尔の毛後毛もたのまん 伊長
- 5 おなし世奈の後迄堂なをもたのむ可かな 契春む歸すふの神尔のまに尔く 元長
- 6 わす類るとも神毛やいさめんちかひ可てし こと古は者を人尔にたのむともミは 済継
- 7 こと古にふれてあ多たなるに毛しも神可かけて い飛ひ毛しハよもと頼可む計は 康親※計は…そむ日…伏…はかりそ高…計そ
- 8 忘れ連しとちかひ可し人のこと者の尔はに かけて可も能の留こる命越とをしれ 雅綱
- 9 ちか可ひてし神飛やたのまん講いつはりも ま講こと可もわか可むわか奈ミならねは 公音
- 10 我尔にのミ尔いふにもあ可らずちかひ可てし こと志は尔神尔のしるに可まかせむ無 公音※阿…と…※2阿…も…※3列…は
- 11 わす禮れすは奈に可かか無ハラ能む河の石の のほり本て星奈となる世阿ありとも 実隆
- 12 枝可をか者ハしはね奈をなら可ふるちかひ可あらハ 只花鳥の世尔をもたのまん 公條
- 13 みしめ縄奈な可か可き契可やちかひ可てし 千々屋のやしろ尔に可かけて頼可まん 重治
- 14 偽奈のなき世尔にな者さは神可かけし 人者のことは能す衛ぬ毛たのまむ無 和長
- 15 偽可もあらしか古こと里のたよりある 神者もあはれ禮め毛われもたのまん 季種
- 16 今志そ可しるちかひ可し末感をたのむとて 神奈のめくみも人奈のな可さけも 公音※日…伏…守光高…なし

廿八日 深更帰恋 恋の9 79 『雪玉集』では実隆のこの歌は欠。

- 1 恨ても夜深き道のいかにそと そふ可か古こ、ろもわれにわか可れて
※日・伏・列…。伏・高…か
- 日3 2 よをこめてなくく出し涙ゆへ ゆふつけ鳥の声も露下けし
※日・雪…。伏・高…へ
- 日2 3 いつをとか心のすゑにまぢもみん まれの夜をたに人とをさて 実隆
※日・雪…。伏・高…へ
- 4 よをふかみわかかへるさは人やりの 道ともいはんつらさをそしる 政為
- 5 よのつねにおき出し朝の道芝も さこそハ露のふかき夜のそら 済繼
- 6 つれなくも何いそくらん有明の 月も夜ふかき人のかへるさ 重治
- 7 夜をこめていそくにあかぬ衣くは うらなくたのむ中としもなし 伊長
- 8 いく程もあらしわかれをいそきつる うらみも人にのこる夜の空 康親
- 9 うしやた、あかつきいつる月をたに またてよふかききぬくくの空 永宣
- 10 なげかしな人めはかりにふかき夜を のこす心のわかりなりせは 雅綱
- 11 とりあへずねそな可な可れけるふかき夜の かねさへきかぬ衣くくの空 二元長
※日…ぬ…伏・高…す
- 12 たちかへりつゆをく袖よしの、めの 鳥よりさきに何をうらみし 為孝
- 13 小車のうらみつぎしてかへるにも 人ハおとろく夢もやは見る
※日…またで、伏…き、て、高…きして。※2日…ある、伏・高…見る
- 14 ふかきよのとも毛にさきたつなくねをハ つげさへあへぬ人のかへるさ 季種
※日・版…鳥…伏…とり。高…とも
- 15 たちかへる名残もつらくのこる夜に せめて又ねの夢やまたなし 守光
- 16 真木の戸によふかく残る月をみよ わかかへるさは思ひなくとも 公音

廿九日 後朝切恋 恋の10 80

- 1 ひとりねをなくさめとてや別ても 朝の床にのこるおもかけ 伊長
- 2 のこしつゝ、人にそへつるたましゐの いかにかへりて今朝ハ恋しき 元長
- 3 つくすへきならひなりともいかさまに 今朝の心をかきもやらまし 済繼
- 4 世にしらぬ月の行衛や今朝ハミの 心のヤミに猶のこるらん 為孝
- 5 あすしらぬ命となにかなけきけん 今朝の名残のうさもならはて 康親
- 6 今朝たにも思ひ消ぬるつゆのミの いかて夜深くおき別けん 永宣
- 7 まことに消はてぬへし逢事に かへてやきつる今朝の命は
※日…涙…。※2も(や)。日・伏・雪…も、阿…や、高…も(や)。※3(も)。日・伏・雪…て、阿…ても、高…て(も)
- 8 つらきにはかこちもやりしわか中の 今朝の名残そことのはもなき 守光
- 9 夢ならはまたもミゆやと思ふたに あしたの床はうかりしものを 公音
※日・版…。伏・高…ら
- 10 又いつといひしそいのち忘れすは 今朝の名残やおもひのとめん
- 11 とし月はあふをかきりのわかなミタ 今朝の袖にハせくかたもなし 公條
- 12 一夜ねていかにたへける七夕の こゝろを今朝の身にもしらハヤ 政為
※阿…たえなる。※2阿…ハ
- 13 しらせはや別し今朝の袖の露 なをきえわひてうきいのちとも 雅綱
- 14 なからへてあれば逢よのいのちとも 思ひなされぬ今朝の別路 重治
- 15 思ひきえは夕への空そ今朝のまは うき別とも心やはある 和長
- 16 をきあへぬ床のけしきもおもひやれ その朝ねかみ残るおもかけ 季種
※日・高…お。伏…を

一日 遂日増恋 恋の11 81

- 1 日数ふるなミ^奈の雨^乃の思^能ひ川^満 まさるみかさ^可はせ^可くかたも^多なし^奈 永宣
- 2 忍^飛ひこし袖^奈のなミ^多たも^盤けふは猶^徒 つゝむにあ^尔まるわ^留かこゝろ^可かな^古
- 3 思^飛ひのミ^徒もる雪^能の日にそへて な^奈ひく草^越木^古をこゝろ^可もかな^那
- 4 なをさ^奈かに^可おもひ^飛そめし^毛も今^志そしる なれ^尔ゆくま^可、にち^可かまさ^可りして 元長
- 5 おも^毛ひ草^飛春^能の雪^能まの日にそへて し^志けるをそれと^志ミ^可すや^可しらすや 済継
- 6 つもり^毛けり^李昨日^利はあ^盤さき^起雪^能のうへ^幾 きえぬ^越思^越をたく^毛へても^毛みよ 政為
- 7 いく^志しほ^本とい^者はむも^毛あ^毛さし^毛恋^奈衣^奈 染^奈す^能日^能々^能の色^尔にみ^奈え^奈な^は 実隆
- 8 さり^佐りと^里も^者たのむ^者契^毛りも^毛あ^毛さ^毛も^毛よ^飛ひ き^幾のふに^尔まさ^尔る人^ののつ^らさ^ハ 季種
- 9 あや^尔にく^飛に^飛思^講ひそ^留ま^尔さ^尔る日^ににそ^へて つ^徒らく^奈なるに^尔も^古こ^りぬ^心は^盤 公音
- 10 物^毛おも^者ふ^多雲^者のは^者た^者て^者の夕^月よ 夜^をへて^まさ^可る^可か^可け^盤は^盤み^ゆら^ん 守光
- 11 と^尔にかく^尔につ^尔れ^奈なさ^講のミ^可や^可ます^可か^可、み^毛 う^毛き^毛おも^毛か^毛け^毛は^毛ち^毛り^毛も^毛く^毛も^毛ら^てて 守光
- 12 と^可へか^奈し^奈な^越日^布を^累ふる^志袖^のし^尔くれ^{には} 心^木の葉^のいろ^をい^可かに^と 康親
- 13 何^尔にそ^奈め^奈何^奈を^奈色^能なる^飛おも^可ひ^可かも^幾 き^のふに^尔まさ^尔る^袖の^千し^ほは^本 和長
- 14 錦^尔木^にあら^多ぬ^多な^多ミ^多た^奈の^乃くれ^{なる}の^袖も^毛い^乃く^乃日^乃の色^をか^可さ^可ね^む 重治
- 15 あ^可か^可ね^可さ^可す^可日^毛数^もそ^尔ら^尔に^本いく^しほ^の お^毛も^飛ひ^能の色^はて^志そ^しら^れぬ 公條
- 16 つ^徒ゆ^志しく^體れ^志め^志し^志木^春す^春ゑ^春ハ^春何^奈なら^て な^奈ミ^多た^多の^乃露^{の色}そ^そひ^ゆく^飛 為孝

二日 非心離恋 恋の12 82

- 1 萩^能の葉^のそ^多よく^多を^毛ミ^毛て^毛思^能ふ^能らん^能 難^能波^のあ^能し^のか^可れ^可し^契り^を
- 2 う^起と^多きた^多につ^可ら^可かり^可し^身の^よそ^人に^尔 其^ま、^奈なら^ん物^とし^りき^や
- 3 心^古こそ^遍へ^多た^者ても^者は^年て^者ね^都を^は ち^常わ^可かれ^にし^寸す^能ま^の浦^なミ^奈
- 4 いか^可に^可せ^志む^志し^けき^人め^をし^のお^山 か^可よ^飛ひ^ミち^もあ^とた^ゆる^まて 元長
- 5 ね^林に^尔こそ^古と^毛おも^毛へ^累る^者は^奈の^心に^も あ^尔ら^ぬ風^やよ^には^はけ^しき 済継
- 6 残^毛し^をく^心や^かた^み玉^ては^こ ミ^をわ^越けて^も思^毛ふ^可わ^可かれ^身
- 7 とり^里あ^寸へ^毛す^毛心^もゆ^可か^ぬわ^可かれ^には^盤 わ^奈する^なと^たにい^ふよ^しも^なし 公條
- 8 や^屋く^乃塩^のわ^可か^身そ^可から^可き^浦風^に な^奈ひ^く煙^は心^しら^ねと 実隆
- 9 中^中た^中えて^中い^可つ^可ち^可か^可さ^可そ^可ふ^水鳥^の 入^尔江^にさ^ハく^波の^うき^草 公音
- 10 思^可へ^可か^奈し^奈その^人なら^ぬう^つし^絵に^尔 遠^毛き^別も^なを^ため^しか^は 守光
- 11 床^床さ^可む^志草^ふし^らぬ^かた^うつ^ら た^堂か^秋風^にた^ちは^なれ^{けん} 守光
- 12 あ^阿は^能れ^志その^あま^のし^ほや^く恨^をも^毛 い^毛ま^ゆく^みち^に思^飛ひ^てつ[、] 康親
- 13 へ^多た^多である^程は^雲の^可かり^そめ^に お^やの^いさ^めし^ねを^や鳴^けむ 季種
- 14 この^別おも^もひ^もかけ^む人^やりに^尔 し^見ぬ^てう^らみ^んこ^のは^もな^し 和長
- 15 身^留に^そふる^扇の^風も^へた^てなく^毛 ゆ^可く^舟路^かな^しき^むし^あけ^のせ^と 重治
- 16 ぬ^れく^寸す^やそ^瀬の^浪も^袖に^{いま} む^可か^しを^可か^{けて}思^可ふ^可わ^可かれ^よ 為孝

三日 見形厭恋 恋の13 83

- 1 いか可にせん立そふ可かけを月尔にみて 心の雲尔にいと者は、身を者 永宣
※日…伏…高…
- 2 いとふらん身古こそ老木の心能をは 花尔になすとも人は盤しらすや 元長
※日…伏…高…
- 3 かへり見て見ぬ尔にしらる、おもかけを われも人尔にそふ可くこと古はる 濟繼
※日…伏…高…
- 4 夢う徒つ、そふおもかけ毛よ誰奈ならむ 見えし我尔を可はいとふ物可から 政為
※日…伏…高…
- 5 をとるふる身盤はたれゆへのおもひとと みるめをさへ尔にいとひは飛つらん 伊長
※日…伏…高…
- 6 みるたひ可にか、みには尔つるおもかけを わすれて人のうき奈になさはや 為孝
※日…伏…高…
- 7 いか可にさて恋尔にやつる、すかた可をは あるにまかせていとひ飛はつらん 公條
※日…伏…高…
- 8 恨奈みしなうき山木起のすかた可には おもひもかけぬ花古のこ、ろを 雅綱
※日…伏…高…
- 9 あちき奈なくよるのちきりはゆる盤るさんん いとふすかた可もし可て見えしを 実隆
※日…伏…高…
- 10 つくもかみおもひ毛みたる、面可かけの たちなる、をもさ毛そいとふらん 重治
※日…伏…高…
- 11 みるめ可かるあまた多によるはあさ衣 かさぬるつまし徒ある世いとふ奈な 和長
※日…伏…高…
- 12 いやし古ハ心者こと尔はの外尔にまた みにく寸きすかた可さそいとふらむ 季種
※日…伏…高…
- 13 三輪乃の山それと體も人のとひ可こかし 身を多をたまき起のいとひ飛はて、も 康親
※日…伏…高…
- 14 人は又盤つれなく見えてやミねとや わかすかた可をもいとひ飛はつらん 守光
※日…伏…高…
- 15 我たにも我多をそいとふ朝古ことのか、みには尔つるかけ可を見るより 公音
※日…伏…高…
- 16 鳴虫毛もはてこそか、るすかた可なれ すすめぬ恋奈のわれや何奈なる 康親
※日…伏…高…

四日 披書恨恋 恋の14 84 ※日・版…数。伏・高・阿・雪・古…披

- 1 偽古の人のこと多の葉尔みるたひに うらみよとてや数徒つもるらん 公音
※日…伏…高…
- 2 かきす寸徒留堂 た、一筆尔のあと尔にたに こ、ろをこめて人徒そつれなき 公條
※日…伏…高…
- 3 わかた可にしらぬかこと可のそふもうしうへハつれなき筆尔のあとにも 実隆
※日…伏…高…
- 4 志累するやいかにたま可く鳥の跡毛見ても 思ふ尔にたえぬ古ねこそ奈なかるれ 政為
※日…伏…高…
- 5 か小りゆく心尔を見ずる玉つさは 此処哥なし 伊長
※日…伏…高…
- 6 伏5 かつはりゆく心李をみする玉つさは とうにうらみの数尔そそひぬる 伊長
※日…伏…高…
- 7 可飛かひそなきよりくる波奈の玉つさも 同しうらみのうしと見るめは 雅綱
※日…伏…高…
- 8 一筆尔にかきと、めたる玉つさよ うらみぬもの、うらみ个られける 元長
※日…伏…高…
- 9 恨累あるその一筆毛もさすかなを をき所奈なきものとやハみぬ 為孝
※日…伏…高…
- 10 うらみある此一筆古をこと者はらハ みよとも人尔に又可やかへさむ 永宣
※日…伏…高…
- 11 可可かハラしといひしにたかふ水可きの 岡寸のくす葉乃や秋風乃の色 重治
※日…伏…高…
- 12 玉つさハねにとるほとを思寸へたし ます寸ハうらみもか、らまし盤やハ 和長
※日…伏…高…
- 13 毛本もしほ草可わかかきやりし程可なり 可可かへる波尔には可みるかひもなし 守光
※日…伏…高…
- 14 待尔えても見るに程奈なき一筆を いかはかりか可はわれ可ハうらミン 守光
※日…伏…高…
- 15 みるたひ多にうちをくハ可かりいかなれは なミたせきあへぬ袖多の玉つさ 季種
※日…伏…高…
- 16 筆乃の海の千尋乃の底も何奈ならて た、一言尔にこもるうらみよ 康親
※日…伏…高…

五日 絶経年恋 恋の15 85 「後柏原院御日次結題」は欠落。板本はあり。

- 1 人ハいさ思ひもいてし年へても づらきを志多 したふ心ありとは 伊長
- 2 音たえはおもひもやまていくかへり 身を志本 志ほりこし秋風の空 政為 ※阿ら
- 3 いく秋そたえにし中の思ひ草 おもひハ可かれぬ種となりぬる 永宣 ※版…す。伏・高…か
- 4 つれなくも何したふらんありてよに なけくとたにも今ハしらしを 雅綱 ※版…す。伏・高…か
- 5 したひてもかひやなからの橋はしら 又かけつかぬ中の契りレ 一元長 ※版…長物。伏・高…なから。※2版…ハ。伏・高…に
- 6 いくたひの秋をか人にうらみけむ 七夕つめをよそになかめて 済継
- 7 引かへてなかきおもひをすかのねの たえし契そいふかひもなき 為孝
- 8 雲かゝる峯のかけはしたえくに かよハぬ中の年ハへにけり 公條
- 9 しのふるいもうしやそのよの新枕 年のいくとせ身ハへたて、も 実隆 ※て、(つと)も。版…伏…も。雪…ても。高…つて。(し)も。阿…てつ、
- 10 たえハてむ心もしらすたのミしや 我つらさのミつもる年月 重治
- 11 いくとせそ花も紅葉も思ひたえて 人のミつらき春秋のそら 和長
- 12 たえにけるなかなや名にたつ滝つ瀬の 年ふるま、に音なしにして 公音
- 13 心にもあらぬ月日そ一たひの 逢にし可かへぬ命な可がさは ※列…ば。※かさ(りせ)。版…列…阿…かさ。伏…かせ。高…りせ
- 14 たえぬとも今一度の逢事を たのむ中とやをくるとし月 守光 ※版…つかる。伏・高…をくる
- 15 誰にまたいつかこつへきこゝるとか へにける年を身にかそふらん 康親
- 16 うき契り絶にし月日いくとせと かせふるたまそありてかひなき 季種

六日 残月越関 雑の1 86

- 1 月ハ猶杖の梢に有明の みちをもたるとる逢坂のやま 雅綱
- 2 影さゆる月のしらはまはるくと 関路あけゆく須戸のうら風 永宣 ※日…関。版…関。伏・高…関
- 3 かへりみる都の月の夜はふかし 鳥の音おしめあふ坂の関 実隆 ※阿…た。※2日…伏・高…雪…を。※3伏…阿…山。雪…やま(関)
- 4 月ゆへもかへりミかちにおき出ぬ 都へたつる逢さかのせき 一元長 ※日…た。伏・高…へ。※2日…な。伏・高…る
- 5 鳥のねにを起きいて、ゆけは関の戸をこゆへき月そ空に残れる 公條 ※日…た。伏・高…を
- 6 越やうて先やすらハむあり明の月はこなたのあふさかのやま 政為
- 7 あかてゆくこれも心の戸さし哉 関の梢の月のあけほの 政為
- 8 都をはあとにへたて、あり明の 月もこゆるやあふさかの関 政為
- 9 あかてゆく都のけさのおもかけも 月にほとなきあふさかの関 済継 ※日…伏・高…阿…山。
- 10 月にゆく竹の下風ふきたえて あくる夜をそきあしからの関 康親
- 11 帰こむ都の月の明かたも 今ハとしたふあふさかのやま 季種
- 12 おきいて、ゆけとよふかしあふ坂の 鳥のそらねも月をミよとか 公音
- 13 しばはまた月たにをくる関の戸を あけぬとたれか立わかるらん 為孝
- 14 こえ行ハ名のミ霞のせきなれや くまなき月の有明のそら 伊長
- 15 有明に舟こきいたせ清見かた 関守るよるのなみともかめし 和長 ※日…た。伏・高…か
- 16 鳥の音に関路こえても都いてし 月やよふかきあふさかのやま 重治

七日 風破旅夢 雑の2 87

- 1 吹しほる袖のあらしはうつつにも 夢にもつらきうつの山こえ
永宣
- 2 旅ならぬ人も思ふに打とけて この山風に夢はあらしを
実隆
- 3 草むすふまくらの風のはけしくて 夢はてなき武蔵野の原
元長
- 4 吹と吹風もいく夜のさ、枕 た、古郷の夢そみしき
公條
- 5 衾かねにかけける夢のうきハしも まくらのあらしすゑハとをさす
季種
- 6 草枕とけてねぬ夜は心とも さめまし夢に山風そふく
雅綱
- 7 さそハる、夢はみしかきさ夜風に あくるはをそき草枕かな
公音
- 8 波風に心ゆるさぬ磯まくら 夢も旅ねのならひ知らし
康親
- 9 はかなくもみえきてつらき風かな 松かねまくら夢もまたぬに
為孝
- 10 枕かる小さ、か霜をふく風に あとなき夢をしたふはかなさ
済継
- 11 心なき此山風よ夢ならて なくさめかたき草のまくらを
伊長
- 12 草枕ミヤこにかよふ夢路さへ たえて身にしむ野へのさよかせ
守光
- 13 やまいつく陰なき草の枕にも 夢はあらしのむさしの、原
政為
- 14 こしかたのたよりの風とおもふとも 夢にはつらき物にやハあらむ
和長
- 15 夢は猶思ふかたよのみえこすは 浪のまくらのかせもいとはし
重治
- 16 枕かるミの、小山の松風に 見はてぬ夢そなこりさひしき

八日 嶺林猿呼 雑の3 88

- 1 ますらおかみねたちこゆるかり声には やしかくれを渡るむら猿
永宣
- 2 峯たかミこのミむなき山風を わかなけきとやましらなくらん
実隆
- 3 みねとよみ林をわたる風の音に 木の葉もたれて猿さけふ声
元長
- 4 猿さけふ峯のはやし雲の色よ 雨ならずとも袖ぬらせとや
公條
- 5 峯たかミ子をおもふ道は木陰も おほつかなくやましら鳴くらん
政為
- 6 かけふかき木すゑもわかぬあま雲の ミねたちならしましら鳴声
季種
- 7 えたととりおつるこのミをひろひても 峯つとふ猿の声そ隙なき
雅綱
- 8 山ひこもとをくこへてや峯つ、き 木ふかき奥にましらなくなり
公音
- 9 峯たかき木すゑの風吹ま、に なくやましら声もすきまし
康親
- 10 きかてさへ住うかるへき峯の庵の 雲のこすゑにましら鳴なり
為孝
- 11 かけふかき木すゑもわかぬあま雲の 峯たちならしましら鳴声
済継
- 12 木つたふ木のはもそよと音はして さるなく峯の雲ふかきくれ
伊長
- 13 くる、日の木ふかき峯にうつりきて あはれましら声そさひしき
守光
- 14 落そむる椎の林に鳴猿の 声や、さむき嶺のあき風
和長
- 15 峯たかき林は鳥もすますなる 枝うつりしてましら鳴なり
重治
- 16 落葉する峯のくる、日に 梢さひしと猿さけふ聲

九日 翠松遠家 雑の4 89

- 1 行めくる道もいく木のかけならむ能可奈無 梢かさなるまつの下庵可奈満 永宣
- 2 落葉かく道たえくの松はらに者飛 さひしくもあるかきこもるミハ毛 実隆
- 3 ねくらとふ鳥もなれる山松に木可 かくれてすむ宿のしつけさ志 重治
- 4 軒も垣も松かえふりてわかやとは巢にすむよとやしら鶴の声 和長
- 5 かくわかと尋ハいらすひきかへてみるかうちよりたかき松はら 元長※日・伏…高…か
- 6 尋きて此世の外とたとるかなそらのみとりのやとのまつ風 公條※日…伏…高…雪…と
- 7 たのむとて千とせをふへき住居かハ姿をめくりの垣もはかなし 伊長
- 8 はる、夜の月さへうとき住居かな枝さしおほふ松の下庵 伊長
- 9 陰しけき松より外は草もなしいほりハ何を引むすひけん 公音
- 10 葉かへせぬ枝もひまなき陰ふかミ年ふる里のよもの松原 季種
- 11 すむ人の千とせをこむる軒はかな庭もそとも、松のみさほに 雅綱※日…を…伏…高…ほ
- 12 はらふへきかたこそなけれ松かけの宿のかよひちふかき落はハ 康親
- 13 めくる日もさすかた見えぬ松かけの軒はハかハく露のまもなし 為孝
- 14 いりくれハかきなるかけもあらハにてた、一むらの松の下庵 済繼
- 15 もみちちる後は色なき松のかき時雨ぞ今は宿になれき 守光※日・伏…影…高…かき…※2日・伏…な…高…に
- 16 年もへぬ庭もかきほも同じ枝の松にかこへる色はかハラて 政為※古…かこつる…阿…かたかく

十日 山人稀 雑5 90

- 1 山里はたまくミゆる人かけも行方しらぬ木かくれのみち 永宣
- 2 とふ人も道なきかたと尋こし心もふかしかくれかのやま 重治
- 3 とハるへき人もはやよになき身かハありて山里思ひすこさし 和長
- 4 さひしともおもハ、たえし山里はなる、ま、なるひとついほりに 元長※日…庵…伏…高…いほりに…※3・4は伏…高…この順
- 5 山里はわか跡はかりふみわけてまたまよふへき道たにもなし 公條
- 6 をとつれもまかえてきかむあらしかハ問へき人もあらぬミ山に 政為
- 7 山里はさすかにたのむ花にたにとハぬ夕のいくすきけむ 伊長※日・伏…も…高…ハ
- 8 とふ人の有ともたれかこたへまし半おほへる柴のとほそに 済繼※日…ゆる…伏…高…へる…阿…へゆる
- 9 よにうれぬなさけありとも山深くすまふ庵はたれかとふへき 季種※日・伏…むすふ…高…すまふ
- 10 かりにたにとハぬやいかにをくれしといひしハかハる山ちなりとも 季種
- 11 大かたの鳥たになかぬ山ふかミいかなる人をまたんとかおもふ 実隆※おもふ(する)…高…おもふ(する)…日伏…雪…阿…おもふ
- 12 とハれぬをよのうき事になさむ身はたのむ山路もすみやうかれん 為孝
- 13 山里にわれすますともすまハやといひしハ人のこゝろならずや 公音
- 14 ゆきかへる人は見えねとしはの庵すむとハかりの誓のはそミチ 雅綱※日・版…蔀…こけ
- 15 問人のあらはとおもふ山の奥にまたすてハてぬ身をそをとろく 康親
- 16 真柴とる人のゆき、をまつ門たのミかはにて過る山かけ 守光

十一日 野寺僧帰 雑6 91

- 1 分可かへる袖可さむからし月可の下の門能は野風能の吹可にまかせて
※風(分)。日・伏・雪。風。高。風(分)。阿。わき
 - 2 可かへりてや又墨染の袖乃の色能に道乃たとり行野能へのふるてら
重治
 - 3 布尔ふりにける寺能は野原能の松乃のかと月尔にた、くも毛しるき可かへるさ
和長
 - 4 花徒つミてかへる野寺能ハすみそめの袖能に露本ほす夕可けふり可かな
元長
 - 5 うき身者をまかせ者せて、し雲水耳にかへるやいつく野徒へのふるてら
公條
 - 6 空ハ雲可かへるをきそふ墨染能のたもともさそな野那への露毛けさ
政為
 - 7 さ佐ひしくかへる野寺能はすみそめの袖毛とふ月毛そともとなりぬる
伊長
 - 8 暮尔わたる野寺能の月可にかねさして舟可さしかへるすみそめの袖能
永宣
 - 9 すミ染能の雲能の林耳の入逢可にかへるもおなし袖毛のさ佐ひしさ
濟継
 - 10 帰累らん袖尔に夕日能のかけ見えて野寺能の道能は山徒もつ、かす
季種
 - 11 道越とを可き野寺可のかねにさそはれてかへる袂可やすみそめの空
※日。ほ。伏。高。を
 - 12 雲毛もいまかへる野寺能の夕耳くらに色古こそまかへすみそめのそて
雅綱
 - 13 墨染能の夕能の袖能に露可分てかへる野累てらはさそなはるけき
公音
 - 14 可かへる袖可いそくを越ミれば者すみそめの夕可のかねの野可への遠可かた
康親
 - 15 心屋をややとす葉能の舟奈ならしかへるは累のへのすみそめのそて
為孝
 - 16 入逢可のかねは雲可よりひ、く野尔にかへるやいつく墨染乃のそて
守光
- ※日といそく。版。急。伏。高。いつく

十二日 田家見鶴 雑の7 92

- 1 聞奈なる、我屋や仙人毛やま田毛もるさハ耳へにあさる鶴毛のもろ声
元長
 - 2 ひたの音越を可のか友可とやあさりする田徒つらの庵能の烁毛さむき空
政為
 - 3 人可かよ田面能の庵能のあさゆふ尔になれてやちかく鶴可のすむらん
伊長
 - 4 守可すつるかき可ねの小田尔に鳴鶴多のたてるすかたそき那なさひたる
永宣
 - 5 人もなき程毛もしられ禮て庵可ちかき田面尔の水尔につるのたつかけ
※日。ほ。伏。高。ね
 - 6 志徒つかにて庵毛もる友能はむしろ田尔にむれるたつ尔し可かしとそ思多ふ
実隆
 - 7 可里かり分徒し田尔つらのさとのいつまてか可つるは門能もる声毛のこすらん
※雪。なる。高。な。も。にて。日。伏。見。高。雪。阿。思。ふ
 - 8 いと飛ひこし庵能はかよ本ていほちかき刈田尔の面徒にたつ古なく古え
季種
 - 9 小田能守能はミなれにけり那な立佐さして可かりほ本にちかたつ多そ奈なく奈なる
雅綱
 - 10 山毛もとの田面尔にみるもあしたつ多の聲能は雲井古の物多とこそきけ
公條
 - 11 本ほらのうち能のむか可しや思帰ふ尔りにける佐さとハ鳥羽田阿のあしたつ多の声多 為孝
 - 12 あさりして能を可のか影毛をやともつるのたてる門田能の水能のさ飛ひしさ
重治
 - 13 里毛のおさ起もを能きな飛さひつ、いね毛もるや田徒つらのつるを可のかよ尔ハひ尔に
和長
 - 14 見毛るも聞毛もすまみさひしき奈ひな鶴能の聲屋や小田守友奈とならん
公音
 - 15 守須すつるとき徒やまち無けむ古あれ古のこる冬田尔の庵多にたつ那のなく那なる
康親
 - 16 守捨能てし庵能はある、むしろ田尔に猶多たちさらぬつるのもろ声
守光
- ※日。と。毛。伏。時。高。し。き。日。行。伏。ま。高。待

十七日 紅雨鷺飛 雑の12 97

- 1 紅をとをミ雨ふきをくる浦風に面かけきゆる波のしらさき 永宣 ※日…お、伏…高…に
- 2 さきのとふ入江の雨の色をミてしらす潮の日はくれにけり 公條
- 3 水に入つはさもあるに飛さきのふる江の雨にしほれてそゆく 済繼
- 4 雨くらき入江のさきはしらなみの たちわかれてやそれをみゆらん 為孝
- 5 さきの行そらハミそれかきくらす 入江の雨に雪のおもかけ 政為
- 6 くれわたる入江の雨によるなみの 色をのこすや鷺のとふかけ 重治
- 7 たつ鷺のをのかみの毛は名のミして 入江の雨にしほれてそゆく 康親 ※日…伏…お、高…を
- 8 雨はる、入江の水にたつにしの 影にまきれぬさきの一つれ 和長 ※日…伏…お、高…を
- 9 たつさきのみのしろころもをのれのミ 雨はる、江の雪とミゆらん 公音 ※日…版…も、伏…高…の
- 10 しつかなる雨の入江にたつ鷺ハ 舟の往来やおとろかすらむ 伊長 ※日…版…も、伏…高…の
- 11 雨くらき入江の松にとふ鷺の をのれくもらぬ色ハ見えつ、 雅綱
- 12 ミの毛たにしほれもあへすふる雨に 入江をとをミ鷺のとふミゆ 季種 ※日…版…く、伏…高…み
- 13 雨になる入江のなミちくれはて、 ねにゆくさきの色そのこれる 元長 ※日…版…く、伏…高…み
- 14 雨くらき水の入江にたつさきの みのけのこせるあとのしら波 守光
- 15 降雨にあしまをいて、とふささきの 入江の水はかけもあらしを 公條 ※日…版…分…て、伏…高…も
- 16 雨にゆく鷺のみのけよみしま江の 真すけの笠もぬひてきせはや 実隆 ※日…ぬきて、伏…ぬきて、高…阿…ぬめて、雪…しひて

十八日 夜涙餘袖 雑の13 98 8は和歌欠により、伏見本で補充

- 1 まきれなくわれをおとろく夜なくそ 涙にせはき袖をしりぬる 済繼 ※日…に、伏…高…阿…そ
- 2 袖のうへのなミたまそなうけかたき 身ハいたつらの老のねさめに 実隆 ※阿…そ
- 3 世のうさはつ、むにあらぬ涙さへ なをせくよハの袖いかせん 為孝 ※日…を、伏…高…は
- 4 うれしさを袖につ、まんことになし よるの涙ハ身にあまれとも 永宣 ※日…伏…も、高…に
- 5 なをしのひあるはうき身をおもふよの 泪のかきり袖もしらしな 政為 ※日…など…なき、高…なを
- 6 老らくのね覚の袖をあらそふや むかしわすれぬ涙なるらむ 重治
- 7 さよ衣袖のほかにもしほりゆく なミたはいつのミをしのふらん 康親
- 8 夜るの袖のなミにをしれ世のうきめ 千こゑもも、こゑねにはたてねと 和長 ※和歌欠、伏見本で補充、※日…夜…の袖…の涙…に…しれ、高…よる…の袖…のをしれ
- 9 ね覚して思ひしことのかすくに なミたとなりて袖にをけとも 毛 ※日…列…せ、伏…高…阿…を
- 10 身をうしとおもひね覚は夢のうちに せかぬ涙や袖にをちけん 元長
- 11 いたつらに老となる身のおもふこと つきぬなミたはよるのそてかな 季種 ※日…列…せ、伏…高…阿…を
- 12 思ふ事ミな夢の世のさのミなと ねさめの袖にかゝるなミたそ 公音
- 13 をろかなるをななく心もふかきより 袖の雫そかさりしられぬ 雅綱 ※日…お、伏…懸…高…を
- 14 をろかなる身はとにかくにうきふしの 涙せきあへぬひとりの袖 伊長
- 15 おもひいて、おつる涙そさよ衣 たもにせはきむかしなりけり 公條 ※日…伏…雪…も、高…り
- 16 さよふかく袖こそしほれミのうちの かきりをわれにかこつ涙は 守光

十九日 憂喜依人 雑の14 99 伏見本は10まで。御日次結題は11なし。

1 市をなす門もこそあれわれすめは 奈古 おなしうきよもかくれかのおく 奈起世毛可 康親

2 よしあしのむくひをしれハ世の中の 志飛 いさミあるにもなけきあるにも 毛奈 政為 ※古…な ※2阿…め

3 人の世のうきをのミなることハりを 起 志累尔満 志累尔満 濟繼 毛奈 ※(に)日伏…は高阿…に

4 あかす猶これをも人は思ふらん 毛盤 をよハぬ身にはあまるめくミを 尔盤 為孝

5 いときなきうへにやとしもいそくらん 奈起 かへらぬ老を人はなけくに 毛盤 和長 ※日…け伏高…き

6 あつさ弓うれはうしなふこと 者 はりは 者 こゝろをわけん物としもなし 毛奈

7 民の戸の時しる雨にうるほふも 尔本 大ミや人はなにいとはむ 者無 元長

8 つかふへきみちあるときをあふくよに 起 なけかされあめや身のおろかさ 奈可 を 季種

9 思ふことハたのしむ人はあるらめと 起 うきミのうきは猶ぞかなしき 奈可 永宣

10 うれしともなすわさなくハおもはめや 毛奈 道あるときにあへる身なから 奈可 公音

11 なくさむはミやこの空の花のはる 古 此末ナシ

日11 12 うき世かハなへての名にもミにしらぬ人をみるにも 毛 われぞかなしき 可奈 実隆 ※か(と)日…高…か(と)雪…に阿…と

日12 なへて其世のことハリや一さかり 奈里 露の朝かほ花の夕良 可本 公條 ※版本による

廿日 竹契週年 雑の15 100 伏見本なし。高松宮本も4まで。

日2 1 寸衛 寸衛 の千とせのかけも契りをけ 可遣毛 ミかきの竹はたれをへたてん 連越福多 ※阿…列…お ※2阿…ぞ 列…は

日1 2 から衣色もかハらしさ、竹の 毛可 大宮人のよ、のちきりは 乃 政為 幾梨盤

日3 3 敷島の道はふかしやくれ竹の 盤婦可 よ、のふることをくつたへて 徒多 実隆 ※ふかしや(な)日…ふりぬや高…ふかしや(な)雪…ふかしや阿…ふかしな

日4 4 末とをきときはのかけは松もあれと 者可 竹にすくなるよをや契らむ 尔奈 濟繼 無

日5 さ、竹の色もかハらし万代に 志 霜のいく度しミハつく共 徒 公條 ※版本による

詠者
女房達はいつもの御人数。番衆ともにも詠むべし仰せらるる。朝の御製ありてみせらるる。
勝仁・花山院兼子・万里小路命子・庭田雅行・松木宗綱・四辻季経・綾小路俊量・甘露寺元長・五辻富仲
勝仁・女房(天皇)・邦高・道永法親王・花山院兼子・四辻春子・庭田朝子・庭田重経・冷泉永宣・万里小路賢房・飛鳥井雅康・四辻季経・山科言国・田向重治・甘露寺元長
勝仁・万里小路命子・勤修寺房子・四辻春子・四辻季経・三条西実隆・綾小路俊量・甘露寺元長・万里小路賢房
御製・勝仁・邦高・三条冬子・甘露寺親長・上冷泉為廣・三条西実隆・勤修寺政顕・姉小路俊量・田向重治
勝仁・邦高・道永法親王・常信法親王・就山永崇・宗山等貴
勝仁・尊敦・邦高・就山・庭田雅行・甘露寺親長・滋野井教國・四辻季経・三条西実隆・白川忠富・綾小路俊量・山科言国・薄以量・庭田重経・万里小路賢房・唐橋在数・五辻富仲・五条為学
勝仁・道永法親王・三条西実隆・四辻季経・甘露寺元長
御製・邦高・三条西実隆・四辻季経・甘露寺親長・勤修寺政顕・甘露寺元長・田向重治・万里小路賢房・姉小路濟繼
御製・実隆・下冷泉政為・四辻季経・綾小路俊量・中山宣親・勤修寺政顕・田向重治・東坊城和長・冷泉永宣・姉小路濟繼
御製・三条西実隆・下冷泉政為・綾小路俊量・小倉季種・田向重治・冷泉永宣・下冷泉為孝・甘露寺元長・姉小路濟繼・上冷泉為廣
御製・邦高・綾小路俊量・東坊城和長・田向重治・冷泉永宣
御製・三条西公条(初度)・下冷泉為孝(初度)
御製・三条西実隆・下冷泉政為・小倉季種・甘露寺元長・田向重治・東坊城和長・冷泉永宣・広橋守光・姉小路濟繼・三条西公条・下冷泉為孝・四辻公音・中山康親・甘露寺伊長・飛鳥井雅綱
御製・三条西実隆・下冷泉政為・小倉季種・甘露寺元長・冷泉永宣・姉小路濟繼・中山康親
御製・三条西実隆・下冷泉政為・小倉季種・甘露寺元長・田向重治・飛鳥井雅俊・三条西公条・冷泉永宣・姉小路濟繼・中山康親・上冷泉為和
御製・知仁・冷泉永宣・三条西公条・四辻公音・鸛尾隆康・庭田重親
御製・知仁・貞敦・中山康親・武者小路秀房・冷泉永宣・下冷泉為孝・三条西公条・飛鳥井雅綱・上冷泉為和

詠者
御製・邦高・四辻春子・庭田雅行・甘露寺親長・四辻季春・滋野井教國・白川忠富・三条西実隆・綾小路俊量
御製・勝仁・覚風法親王・四辻季春・松木宗綱・滋野井教國・白川忠富・三条西実隆・甘露寺元長カ
御製・勝仁・邦高・三条冬子・四辻春子・甘露寺親長・滋野井教國・四辻季経・三条西実隆・甘露寺元長
御製・邦高・三条冬子・四辻春子・中院通秀・勤修寺教秀・徳大寺実敦・甘露寺親長・飛鳥井雅康・三条西実隆・滋野井教國・下冷泉政為・姉小路基綱・上冷泉為廣・小倉季熙
御製・三条冬子・大炊御門信量・中院通秀・海住山高清・甘露寺親長・三条西実隆・四辻季経・姉小路基綱・冷泉為廣
御製・女房・邦高親王・姉小路基綱・冷泉為広・山科言国など

詠者
義高・高倉永継・広橋兼顕・日野政資・上野刑部少輔・伊勢貞宗・星野宮内少輔・伊勢七郎・伊勢貞頼・安東右馬助・伊勢七郎次郎・小串次郎・坪和興次郎・安東平五郎・布施新三郎・夏阿弥・松阿弥・木阿弥・仙阿弥・大館治部少輔・杉原賢盛・杉原長恒
打聞衆(中院通秀・三条西実隆・姉小路基綱・杉原賢盛など)・宗山等貴・高倉永継・冷泉政為・日野政資・飛鳥井雅俊・伊勢貞頼

詠者

詠者

表1 後柏原天皇主催など着到和歌一覧

●勝仁親王・後柏原天皇主催着到和歌

No.	親王・天皇	起日	満日	人数	起日歌題	二日目	満日歌題	歌題構成	出典	原本	写本
1	勝仁親王	文明8年3月3日	(6月14日)	不明					実隆		
2	勝仁親王	文明9年3月3日	(6月14日)	不明					実隆		
3	勝仁親王	文明11年9月9日	(11月20日)	不明					お湯		
4	勝仁親王	文明12年9月1日	12月11日	9人	立春	山霞	祝言	20・10・20・10・20・20	実隆・お湯		
5	勝仁親王	文明15年9月9日	12月19日	15人	立春	子日	述襖	堀河院初度百首(20・15・20・15・10・20)	東山御文庫	△	
6	勝仁親王	文明17年9月9日	12月19日	9人	立春	朝霞	祝言	為家百首題C(20・15・20・15・20・10)	実隆	△	○
7	勝仁親王	文明18年9月9日	12月19日	不明	初春	霞	祝	弘長百首題(20・10・20・10・20・20)	実隆		
8	勝仁親王	文明19年3月3日	(6月14日)	10人				一字題	実隆		
9	勝仁親王	長享2年3月3日		6人				春20・夏15カ。歌合	実隆		
10	勝仁親王	長享2年9月9日	12月19日	18人				着到連歌	実隆・親長・お湯		
11	勝仁親王	明応2年3月3日	5月14日	5人	早春	憐霞	閑屋	20・15・20・15・15・15	実隆	○	○
12	後柏原天皇	文龜3年3月3日	6月14日	10人	立春	山霞	祝言	文正百首題(20・15・20・15・20・10)	実隆		○
13	後柏原天皇	文龜3年9月9日	12月19日	11人	歳暮立春	山霞	祝言	為家百首題B(20・10・20・10・20・20)	実隆		
14	後柏原天皇	永正2年3月3日	6月14日	11人	都鄙立春	子日催興	社頭祝世	20・15・20・15・15・15	実隆・二水	○	○
15	後柏原天皇	永正3年11月9日	12月17日	6人	立春氷	初春霞	祝言	為家百首題A(20・10・20・10・20・20)	実隆		○
16	後柏原天皇	永正5年9月9日	12月20日	不明					実隆		
17	後柏原天皇	永正6年9月9日	12月20日	16人	歳中立春	野外朝霞	竹契週年	20・15・20・15・15・15	実隆	○	○
18	後柏原天皇	永正8年3月3日	6月14日	8人	山早春	子日友	哥神祇祝	20・15・20・15・15・15	実隆		○
19	後柏原天皇	永正10年3月3日	6月14日	12人	初春	霞	祝	弘長百首題(20・10・20・10・20・20)	実隆	○	
20	後柏原天皇	永正14年3月3日	※6月16日	7人				当座10日分、春10	二水		
21	後柏原天皇	永正16年3月3日	6月14日	10人	歳中立春	六月立秋	社頭祝言	宗尊親王歌合題(春秋30・夏冬30・恋雑40)	二水	○	○

●後土御門天皇主催着到和歌

No.	親王・天皇	起日	満日	人数	起日歌題	二日目	満日歌題	歌題構成	出典	原本	写本
1	後土御門天皇	文明4年9月9日	(12月18日)	不明	立春	山霞	祝言	20・15・20・15・20・10	親長・紅塵灰集		
2	後土御門天皇	文明7年3月3日	6月14日	10人					実隆		
3	後土御門天皇	文明7年9月9日	12月19日	不明	立春				実隆		
4	後土御門天皇	文明8年3月3日	(6月14日)	不明	早春雪	狐嶋霞	寄国祝	20・15・20・15・15・15	紅塵灰集		
5	後土御門天皇	文明8年9月9日	(12月18日)	不明	立春	山霞	祝言	20・15・20・15・15・15	紅塵灰集		
6	後土御門天皇	文明9年9月9日	12月19日	10人					実隆		
7	後土御門天皇	文明10年9月9日	(12月19日)	不明					お湯		
8	後土御門天皇	文明12年9月1日	12月11日	15人	立春氷	初春霞	祝言	為家百首題A(20・10・20・10・20・20)	実隆・お湯	○	○
9	後土御門天皇	文明13年9月1日	12月12日	10人	立春朝など	立春山など	寄水祝など	20・10・20・10・20・20	親長・お湯	○	短冊
10	後土御門天皇	文明15年3月3日	6月13日	不明	霞	鶯	弓	一字題	お湯	○	
11	後土御門天皇	延徳2年9月9日	(12月18日)	5人					実隆・お湯		

●足利義尚主催着到和歌

No.	親王・天皇	起日	満日	人数	起日歌題	二日目	満日歌題	歌題構成	出典	原本	写本
1	足利義尚	文明9年9月9日	(12月19日)	22人	立春				兼顕卿記		
2	足利義尚	文明10年9月9日	(12月19日)	不明	立春	山霞			兼顕卿記		
3	足利義尚	文明15年9月2日	10月22日	20人	都立春・里霞(二日分)		寄国祝言	20・10・20・10・20・20	十輪院内府記・実隆		

●尊敦親王主催着到和歌

No.	親王・天皇	起日	満日	人数	起日歌題	二日目	満日歌題	歌題構成	出典	原本	写本
1	尊敦親王	文明18年3月3日	(6月14日)	不明		山霞			言国卿詠草		

●知仁親王主催着到和歌 ☆後奈良天皇は上巳の節句は鶏合せ・重陽の節句は和漢聯句を恒例とする。

No.	親王・天皇	起日	満日	人数	起日歌題	二日目	満日歌題	歌題構成	出典	原本	写本
1	知仁親王	永正6年9月9日	(12月19日)	不明	早春風	子日	寄日祝	20・15・20・15・15・15	貞敦親王著到百首和歌(伏見526)		
2	知仁親王	永正7年9月9日	12月19日	不明					実隆・二水		
3	知仁親王	永正8年3月3日	6月14日	不明					実隆		

注) 満日の括弧書きは起日から百日目。※は百日目ではない。原本の△は、勝仁親王自筆の写本。為家百首題は書院部蔵「明題部類抄」所収順ABC。

勝仁親王No.5は本山八重子氏のご論文、後土御門天皇No.10は川上一氏のご研究により補足
出典の実隆は「実隆公記」、親長は「親長卿記」、お湯は「御湯殿上日記」、二水は「二水記」の略

○勝仁親王・柏原天皇主催の各着到和歌の特色

- 3は閏9月を跨ぐ
- 4は後土御門天皇と同じ日程の9月1日起日で同時に興行
- 5は堀河院初度百首の歌題で後土御門天皇が女房として参加
- 6は為家百首題Cで興行
- 7は弘長百首題で興行
- 8は一字題で興行。女房の参加が見られる最後
- 9は「被分左右云々」とあることから、歌合の形式を含む着到和歌として興行カ
- 10は着到連歌。形式不明
- 11は閏4月を跨ぐ
- 12は天皇として最初の着到和歌。文正百首題
- 13は為家百首題Bで興行
- 14は最初の百日四文字歌題
- 15は起日が変則的。閏11月を跨ぐ、一日に二日目の日が二度あり。後土御門天皇主催の4の歌題と同じ(為家百首題A)
- 17は知仁親王主催が同一日程で興行
- 16は三条西実隆の息公条、下冷泉政為の息為孝が着到和歌に初参
- 20は兼題ではなく当座、10日分を一日で詠む。満日が二日ずれる
- 21は歌題が変則的で、春秋交互・夏冬交互・恋雑交互(宗尊親王歌合題)